

小 楠

スローガン

つながいと見守いのまち小楠
～元気で明るい小楠を目指そう～

実践目標①～誰一人取り残さない～

くい返し、くいかえし防災の情報共有をしよう

実践目標②～誰もほっとかない～

交流の場づくり、人づくりで仲間をつくろう

実践目標③～誰もが暮らしやすい～

相談しやすい環境づくりをしよう



小楠
人口 8,626 人
自治区数 17

小楠地区は医療機関や店舗もあることから生活面の便利さを感じている人が多い地域です。

3次計画策定後の2017（H29）年には地域福祉ネットワーク協議会「OGUSU 友愛 2017」が発足し、地区内の活動団体や関係機関とが集まり、情報共有する場ができてからは、住民型有償サービス、地域サロンをはじめ住民福祉活動が活発になっています。

海岸に近い地域では防災意識も高く、訓練や仕組みづくりに積極的に取り組んでいます。

	2011（H23）年	2016（H28）年	2021（R3）年
人口	8,555	8,625	8,626
世帯数	3,803	4,075	4,266
高齢化率	19.5%	23.9%	27.0%
一人暮らし高齢者	473	610	743
高齢者のみの世帯		1,473	1,650
0～18歳人口	1,659	1,559	1,519

※各年ともに9月30日時点のもの（中津市の統計データより）

実践目標と設定理由・効果

実践目標①

～誰一人取り残さない～

くい返し、くいかえし防災の情報共有をしよう

「避難所の備蓄ってどうなってるんだろう」「避難場所を知らない人が多い」「普段なかなか話す機会がない」など、「危機意識はあっても知識や情報に個人差が大きいのではないか？」という意見が多くありました。

さらに、同じ小楠地区内でも、住んでいる地域により意識に差があることから、災害時にだれ一人取り残さないためにも、日常から話したり、交流につながるような訓練の機会をもつことで自主防災組織機能、要援護者の把握、防災を通じた地域づくりにつながります。

実践目標②

～誰もほっとかない～

交流の場づくり、人づくりで仲間をつくろう

「昔はお宮を利用しての行事がたくさんあった」「核家族化が進み、昔ながらの地域とのつながりがなくなっている」など、日常的な住民同士のつながりが希薄になっていることへの心配な声が多くありました。

実践目標①にある防災ともつながりますが、日常から住民が集う場をつくっていくことが大切です。子どもの意見も聞いたり、高齢者が先生になったり、みんなでラジオ体操したり等、多様な場づくりをすることで地域活動への参加の促進にもつながります。

実践目標③

～誰もが暮らしやすい～

相談しやすい環境づくりをしよう

「自分で SOS を出せない人がいるのではないか」「相談先がわからない」「情報が少ない」など、何か困った時にどこに・誰に相談したらよいのかについて不安を抱えている現状についての意見がありました。

すぐに解決できない悩みなどもあることから、気長に関わっていくことが大切であり、また小さな単位で相談できる人がいると安心に繋がり、地域全体がやさしく暮らしやすくなることにつながります。

他にも出ましたこんな課題 !!

団体同士の横のつながりづくり

高齢者の見守り・関係づくり

子どもが生き生きできる環境づくり

小さな単位のネットワークづくり

気持ちのおすそ分けをする関係づくり



【小楠】

活動内容	進 捗				
	R4	R5	R6	R7	R8
小さな単位（向こう三軒両隣）での助け合える関係づくりをする					
地域で繰り返し、防災訓練や避難訓練を実施する					
水害時の備えとして避難場所など正しい情報提供をする					
備蓄について周知する					
自主防災組織の再構築（自治会単位で助け合えるきっかけづくり）					
子どもの気持ちを尊重した参加しやすい世代間交流の場づくり					
お宮などを利用し、祭りだけでなく体操や昔遊びなどで交流する					
子ども、高齢者、障がい者との交流の機会を増やす					
悩んでいる子育て世代との交流を増やす					
一人暮らしが増える中、地域の「世話焼きさん」を増やす					
民生委員、自治委員、住民が連携して見守る					
サロンや有償などの住民福祉活動も活用し、つながりづくりをする					
気長に寄り添い、本人から相談しやすい環境づくりを進める					
小さな単位で周りが気づき、本人に働きかける仕組みづくりをする					
相談窓口の情報収集・周知をし、相談しやすい環境づくりをする					
ひきこもりの当事者やその家族に継続的に情報発信をする					
サロンなどの集まりで困っていること・人などの情報共有する					

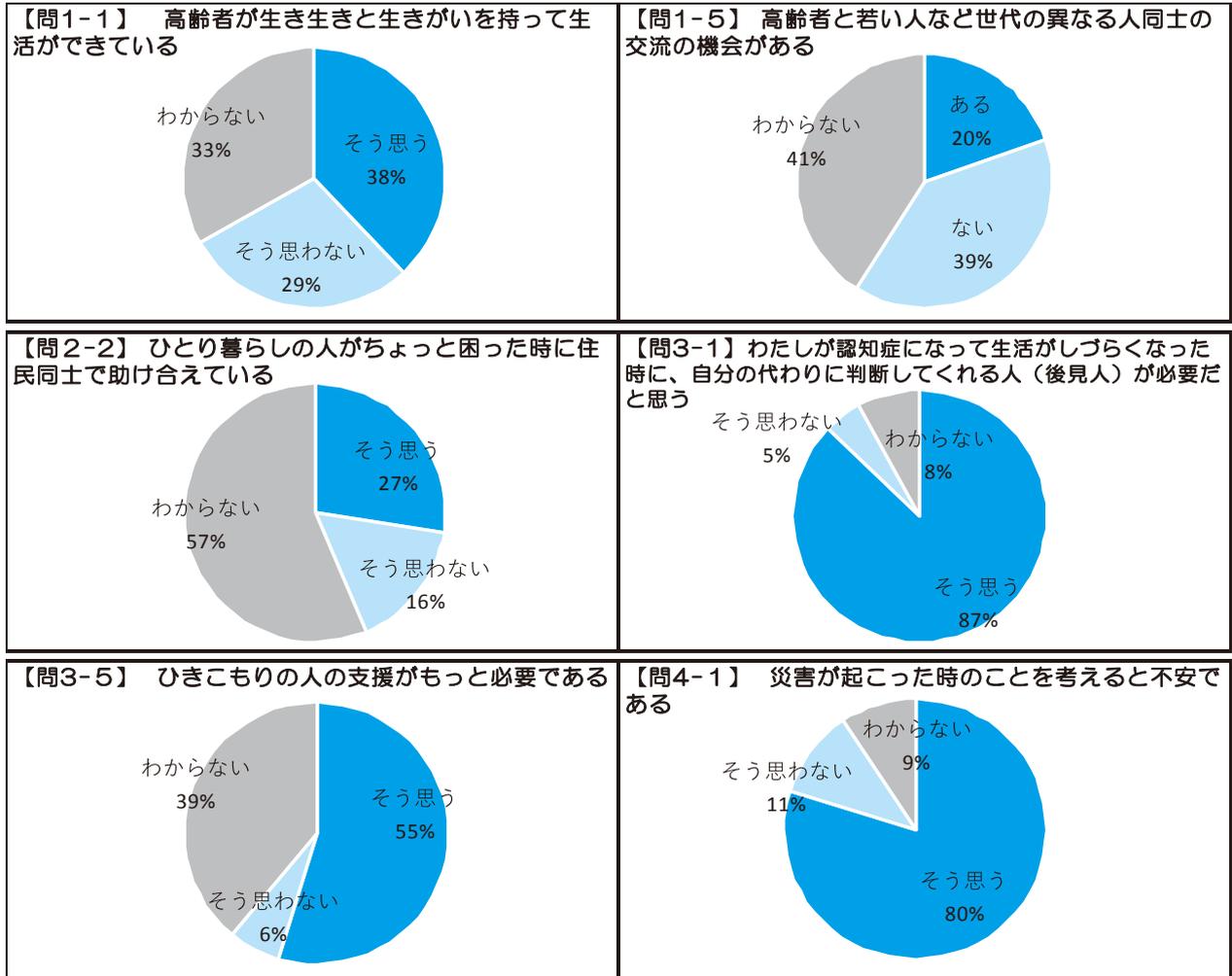


第4次の実践目標はこうして決まりました

小楠地区の「地域のつながりアンケート」結果

回答者数	64人（男性20人/女性43人/無回答1人）
回答者年代	中学生・高校生：11人、20代：1人、30代：8人、40代：10人、50代：9人、60～64歳：4人、65～74歳：15人、75歳以上：6人

内容抜粋 無回答分は除いています



アンケート結果から作業部会で出た意見(課題)

- ・高齢者や障がい者関わらず、共通の趣味で交流する
- ・閉じこもりがちの人へのこまめな声掛け
- ・自分にとって豊かな老後を一人ひとりが考えること
- ・子どもの気持ちを尊重した、子どもが参加しやすい世代間交流が必要
- ・ボランティア活動や相談先などの情報発信の工夫(市報、回覧板、コミュニティだより、SNS 等)
- ・地域で認知症の人を支援するには、家族が認知症であることを周囲に言える環境づくり
- ・認知症予防のための「軽い運動、畑仕事、作業」等の大切さの理解を広げる
- ・朝昼夜起こりうる災害の種類を想定した避難訓練
- ・空き家の情報共有
- ・防犯パトロールなど若い人に担ってもらえるよう世代交代を考える(人材確保)

作業部会で出された、小楠の地域福祉活動の良いところ

- ・高齢者間で助け合い、子供の見守りやパトロール活動をしている
- ・毎日のように地域の人や保護者の登下校時の見守りがある（特に東浜、新田地区）
- ・子ども連絡所の再整備を行った。抑止力にはなる
- ・日常生活の中での見守りをしている人もいる
- ・サロンの活動が活発に行われていると感じる
- ・一人暮らしの人を支えるなど地域住民同士の助け合いがある
- ・民生委員の見守りがある
- ・小楠さんくすサービスがある
- ・ゴミ出しのルールは、だいたい守れている
- ・ゴミの分別に対する意識が高くなった
- ・地域差はあるが、土嚢を準備するなど防災の意識はある

様々な意見をもとに作業部会で、整理をし、第4次地域福祉活動計画を作っていました



小楠の社会資源

(R3年度現在、登録状況や作業部会の方々の意見を参考に作成しています)

お宝（住民による住民のための支え合いや参加を進める活動のことです）

住民同士の 交流・つながりの場	地域サロン（2）	こまどりの家（毎週土曜日） 地域サロン百歳（ももとせ）（毎週水曜日）
	週一体操教室（2）	楠くすクラブ（毎週木曜・小楠コミュニティーセンター） 一ツ松にここにこ健康クラブ（毎週金曜・一ツ松集会所）
ボランティア活動	給食ボランティア	あやめ会（第2水曜・西大新田集会所） わらび会（第3木曜・東大新田集会所） ひがしはま（第2金曜・東浜集会所） うしがみ（第2木曜・牛神集会所） 一ツ松（第1木曜・一ツ松集会所）
	小楠で活動する地域ボランティア	朝の読み聞かせグループ「クレヨン」（小楠小）
住民型有償サービス		小楠さんくすサービス
防災活動		中津市防災士協議会小楠部会、消防団
防犯活動		防犯パトロール

地区内の相談窓口

高齢者の生活全般に関する相談窓口	地域包括支援センター（高齢者相談支援センター）三光園
民生委員による心配ごと相談窓口	毎月第3金曜 13:00～16:00 小楠コミュニティーセンター

その他の相談は、社会福祉協議会または市の総合相談窓口（P.153参照）にお問い合わせ下さい